

平成 28 年 10 月 6 日（木）

於：きぼう

安曇野検定準備講座

「荻原守衛一愛は芸術なり 相剋は美なり」

碌山美術館 学芸員 武井 敏

① 略歴

- ・碌山美術館（1958 年開館、設計：今井兼次）現在は四つの展示棟からなる
- ・号「碌山」の由来
- ・井口喜源治、相馬愛蔵、東穂高禁酒会
- ・明治女学校（明治 18～41）
- ・ロダン《考える人》

② 碌山の位置づけ

- ・二つの重要文化財作品
《女》
《北條虎吉像》

③ 人柄

④ 作品（彫刻全 15 作品）

- ・相馬黒光への思慕と作品
《文覚（もんがく）》（1908 年）
《デスペア》（1909 年）
《女》（1910 年）
- ・《坑夫》
- ・作家言 蕾にして凋落せんも亦面白し
天の命なれば之又せん術なし
唯人事の限りを尽くして待たんのみ
事業の如何にあらず 心事の高潔なり
涙の多量なり 以て満足す可きなり

Love is art, Struggle is beauty.

（愛は芸術なり、相剋（悶え、煩悶）は美なり）

荻原守衛略歴

- 1879年 12月1日誕生。農家の五男。本名：守衛。
1894年 東穂高禁酒会に入会。相馬愛蔵、井口喜源治を知る。
（キリスト教の矯風的精神に基づく団体）
1896年 心臓を病む、読書にふける。絵を試みる。
1897年 相馬黒光、穂高へ。
1898年 出奔。
1899年 初めての上京。10月、画家を志し上京。明治女学校に仮寓。
1901年 3月、渡米。10月、フェアチャイルド家の学僕となる。
1903年 10月、渡仏。
1904年 5月、ロダンの《考える人》に衝撃を受ける。帰米。彫刻へ転身。
1906年 9月、再渡仏。
1907年 この頃「碌山」の号を使い始める。
《女の胴》《坑夫》 12月帰国の途につく。
1908年 3月、帰国。6月、新宿にアトリエ完成。《文覚》
1909年 《デスペア》《北條虎吉像》《労働者》
1910年 《女》 4月22日、中村屋で死去。



《坑夫》



《女の胴》



《北條虎吉像》



《労働者》



《文覚》



《デスペア》



《女》